

平成28年度 地域懇談会（南部支所管内） 記録	
日 時	平成29年1月25日（水） 午後7時から8時30分まで
場 所	久慈交流センター 多目的室
出席人数	（1）市民 7人 （2）事務局 教育長、教育部長、学務課職員、適正配置推進室職員 計12人
内 容	（1）学校の適正配置について （2）意見交換
事務局説明	（1）資料1について （2）小中学校適正規模に関する意識調査（途中集計）について [資料なし] （3）日立市学校教育振興プランについて
意見交換	<p>（ 質 問 ） アンケートで「3学級が望ましい」という回答が多いということは、現時点で3学級に満たない学校は統合していく方向と考えてよいか。</p> <p>（ 事務局 ） アンケートの結果は、ご意見の一つとして受け止めている。 今後、検討委員会の中でいろいろな要素を踏まえて議論をし、日立市の子どもたちに一番良い形を考えていきたい。案ができた段階で、皆様にご意見を伺いたいと考えている。そのようにして決めていきたい。</p> <p>（ 質 問 ） 台原中では部活動の種類が減ってしまい、泉丘中や大久保中に生徒が転出してしまう。台原中の魅力を知ってほしいし、偏りが少なくなるような方法を考えてほしいし、それでも…という時には統合も…。 台原学区の団地から泉丘中までは通学にも不安がある。</p> <p>（ 教育部長 ） 最近、入りたい部活動がないという理由で、住所で指定された中学校から別の中学校に変更する生徒も多く、そのような事情が重なって台原中に通う子どもたちが少なくなっているのかなと思う。本来行くべき学校に行っていただくということも、統合などの前に取り組む方策の一つでもある。 コミュニティの区域と小学校区は重なっているなので、学区の見直しなどは慎重に行わなければならない。感情的にも難しいと認識している。国や県から基準は出ているが、「地域の実情を考慮して」となっている。数字だけで考えることはできないが、少な過ぎることも子どもたちにとってはかわいそうだなと感じている。いろいろな子どもたちと付き合い、人間関係を学ぶことで、大人になったときに人間関係を築ける力となる。今後15年くらいの中に、子どもが増える要素もないので、1学校の人数を増やす方策を考えなければならなくなっている。取り組みが遅くなったが検討を始めたところである。</p>

(質 問)

学校の統廃合について、日立市は対応が遅いと思う。早急に適正な配置を考える必要がある。計画ができるまでの間にも小規模化が進む。東小沢小や山部小などの学校はさらに影響が大きい。統合が必要だと考えるが、その間においても子どもたちへの配慮が必要だ。

(事務局)

非常に大切なことなので、工夫していきたいと考える。
小規模校では、デメリットを最小にする工夫を行っている。

(質 問)

今回の(地域懇談会)の周知はどのようにしたのか。

(事務局)

市報を中心に周知した。保護者にはチラシも配布した。FMひたちでは放送していただいた。

(質 問)

アンケートの回収率、とくに教職員の関心が低いのではないか。地域懇談会への参加者が少なく、関心が低い。(計画ができるまでの)2年間の間に関心を高める工夫が必要だ。

(事務局)

教職員のアンケート回収率が低いというご指摘をいただいたが、学期末の忙しい時期にあたってしまったこと、長期研修や休職中の教員が70人程度いたことなども重なってしまった。実質的な教員の回収率は84%程度である。

(意 見)

アンケートなどを契機にして、委員会が浮足立っている印象を地域に与えたと思う。大なり小なり噂は立っている。小規模校の地域をしっかりサポートしていかないと、小規模化をますます進行させてしまう。

(事務局)

承知した。しっかりとやっていきたい。

(教育部長)

検討委員会での議論を聞いていると、自分の育った環境から(適正な規模を)イメージしているように感じる。1クラス50人位の時代もあって、それがいいとは思わないが、それなりにやっていたと思う。市内には全校で35人位の学校もあるが、皆さんはどのくらいがよいと感じですか。

(意 見)

(教員の経験から)1クラスは30人以下がいい。全校で30人程度では少な過ぎる。複式学級のよさがあると聞くがデメリットの方が大きいと思う。「この子は乱暴だ」となったら6年間、その評価が続く。人間関係が固定化されてしまい、豊かな人間性の醸成などは望めない。少なくともクラス替えができる規模は必要だと考える。

(教育部長)

懇談会などでいろいろなご意見を伺いながら、どこかでは決断しなければならない。学校以外の要素もあるが、実際に統合するということができれば、しっかりとやっていかなければいけないと考えている。

(質 問)

小中学校の立地を変えずに小中一貫校（併設型）としている市もある。日立市では小中一貫校についても考えているか。始まったばかりで、問題点などはこれから出てくるのかもしれないが、一貫校の問題などはこれから情報を出してもらえるのか。

(教育部長)

小中一貫も視野に入れて考えていこうとしている。小中学校が単になっても、各学年の学級数は増えないので、学校を効率よく運営するという点では良い点もあるが、本質的な問題解決にはならない。

義務教育学校などは、カリキュラムを自由に組めるという良い点もあるので、視野に入れていきたい。

(事務局)

小中一貫教育の良いところを取り入れて、小中連携教育を全校で取り組んでいる。

小中一貫校のデメリットの一つとしては教員配置の問題がある。小中の免許が必要で、教員の確保が難しい。特に中学校では、学校の規模によって教員の配置が変わり、6学級では主要3教科で教員が1人になってしまう。1人の教員が1～3学年の授業準備を全て行うことになり負担が大きい。2人いると互いの授業を研究し合ったりして授業の質を高めることができる。

(質 問)

学級編成の仕組みを教えてほしい。

(事務局)

国の標準を基に都道府県が基準を決めることになっている。茨城県では、小学校1年生～中学校1年生までは35人以下で授業ができるようなルールを作っている。

(質 問)

秋田県では30人など、少人数でやっている県もある。この点について検証していくことが必要ではないか。

(教育部長)

(学級編成基準は) 県の制度なので、県が変更することは可能だが、市で行おうとすると市が教員を雇用することになり、費用、異動範囲が市内限定に限定される点などを考えると現実的には難しい。

(質 問)

アンケートの集計結果で、小規模校の傾向を教えてほしい。統合を望んでいるのかどうか。

(事務局)

集計中なので、分析を終えた段階で説明の機会を設けたい。

(教育長)

現時点での不安や希望などあれば、聞かせてほしい。

(質 問)

少ない中でも協力してやっているのですが、何とかやって行けるが、今後さらに少なくなっていくと、PTA活動の負担が大きい。

今、感じている不安としては、先生方も少なく、出張などがあると校長先生が授業していたりする。子どもたちの学習の進捗や理解度に不安がある。統合となった場合、路線バスもないので、スクールバスを出してもらえるか不安がある。毎日の送迎は保護者負担が大きい。

(事務局)

アンケートでも、通学の安全性について一番大事にしてほしいという結果が出ている。委員会でも、その点は大切に考えていきたい。

(質 問)

素案ができた時点で説明があるか。

(事務局)

基本方針の素案を作った段階で説明の機会を設けたい。具体的な計画も素案ができた段階で、より地域に近いところで説明の機会を設けたい。

(意 見)

説明会の時間を早めてほしい。日中の時間帯でも設定してほしい。

(事務局)

承知した。配慮していきたい。

(意 見)

日立市は子育てしやすい事業が多く、教育にも熱心だと感じている。家を建てて近隣市町村に出てしまう人がいるが、日立市がいろいろがんばっていることをもっとアピールしてほしい。

(教育長)

嬉しいお話が聞けた。担当課にも伝えたい。